

Express5800 シリーズ

N8103-85 増設バッテリー (SATA)

ご使用時の注意



添付のユーザズガイドとあわせてお読みください

本製品をご使用になる前に以下の内容をご確認ください

1. キャッシュモードについて

本製品を使用する場合は、以下の点に注意してください。

- (1) 本製品を使用する場合は、キャッシュモード^(*)を「Auto Switch」に設定して使用してください。
ただし、オペレーティングシステム(OS)をインストールする時は「Write Through」に設定し、インストール完了後に「Auto Switch」に変更してください。
- (2) 本製品の有無に関わらず、「Write Back」に設定しないでください。
- (3) 本製品を組み込んだ構成でご購入された場合でも、ご購入時は「Write Through」に設定されていますので、「Auto Switch」に設定変更して使用してください。

(*1) キャッシュモードの設定は、FastBuild Utility では「Cache Mode」、PAM(Promise Array Management)では「Write Mode Selection」と表示されます。

各キャッシュモードの機能は以下の通りです。

キャッシュモード	機能
Write Through (WriteThru)	ライトスルーモード。ライトキャッシュを使用しないモードです。 本製品を使用しない場合は、データ保護のために本モードに設定してください。 デフォルト(出荷時)設定は本モードになっています。
Auto Switch	オートスイッチモード。バッテリーの残量・状態を監視し、キャッシュステータス ^(*) を切り替えるモードです。バッテリーに異常がない場合はライトキャッシュを使用しますが、異常を検出するとライトキャッシュを使用しません。
Write Back	ライトバックモード。バッテリーの残量・状態に関わらず、常にライトキャッシュを使用するモードです。 そのため、バッテリーの異常時に HDD のデータを破損あるいは損失する恐れがあります。

(*2) キャッシュステータスは、PAM の「Information View」画面の「Current cache mode status」で確認できます。ライトキャッシュを使用しているときは「Write Back」、使用していないときは「Write Through」と表示されます。

設定画面のイメージ図を裏面に記載します。詳しい設定方法については、以下のドキュメントをご覧ください。

PAM で設定する場合

ディスクアレイコントローラに添付されている CD-ROM 「N8103-78 Disk array Controller (SATA) Management Software」内のオンラインドキュメント「Promise Array Management ユーザズマニュアル」をご覧ください。

FastBuild Utility で設定する場合

ディスクアレイコントローラに添付されているユーザズガイドをご覧ください。

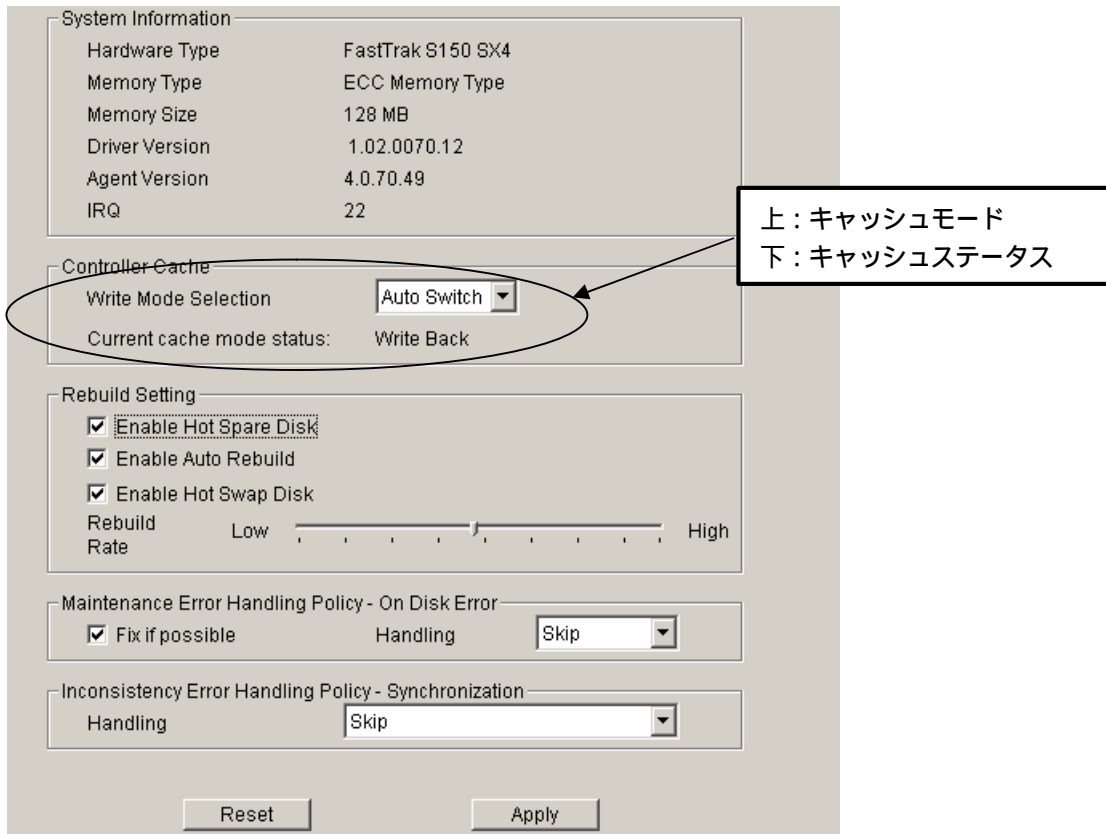


(裏面もご覧ください)

855-900384-002-B 2 版

【 PAM の設定画面 】

「Information View」の画面でキャッシュモードを設定します。また、この画面でキャッシュステータスも確認できます。



【 FastBuild Utility の設定画面 】

「Controller Configuration」の画面でキャッシュモードを変更します。

